

2009 前期 番号	著者名	書名	出版年	出版社	価格	本文 ページ数	ISBN	コメント	採用期 1(2007後期) 2(2008前期) 3(2008後期) 4(2009前期)
1	DVD版	オバマ大統領就任演説	2009	ゴマブックス	1980	92	978-4777112623	まずは、そのあざやかなパフォーマンスを堪能してみる。 つぎに、どんな話題、言葉が選ばれ、どう構成されて、かくもみごとな、エモーショナルな演説になったのかを分析してみる。 そんなふうには二度は楽しみたい逸品です。 私にとっては、くりかえしくりかえし、歴史が参照されることが、やはり印象的でしたね。endured the lash of the whip～ムチの痛みを耐え～と黒人の苦難をもほのめかしつつ、Gettysburg(南北戦争) Normandy(二次大戦) Khe Sahn(ヴェトナム)。 演説ラストで語られる建国の苦難はin the coldest of months～一年でいちばん寒い月～のできごととして語られ、それが in this winter of our hardship～我々が直面している困難な冬の時代～へと重ね合わされ、聴衆たちが立つのも1月の寒い屋外モール。計算しつくされたシンクロぶりは、さすがです。	4
2	バラク・オバマ	マイ・ドリーム バラク・オバマ自伝	2007	ダイヤモンド社	2400	542	978-4478003626	いま、世界でいちばん注目されている男が、どうやって作られてきたか。 ハワイ・シカゴ・ナイロビ。少年が青年へと成長し、社会のなかにささやかな居場所を見つけ、先祖に出会うための旅へ出る。 初めての演説がたったの1分間で終わってしまったとか(128ページ)、たくさんのできごとが、まるで日記から語り起こされたかのように、驚くほどに緻密に内省的に語られてゆく。 それにしても33歳で500ページの自伝をものしたこの男は、今から10年後、どんなヒストリーを刻んでいるのだろう。リタイア後にきっと書かれるだろう自伝が楽しみです。	4
3	ポール・クルーグマン	格差はつくられた	2008	早川書房	1900	240	978-4152089311	クルーグマン、憤る。 スーパーリッチvsワーキングプア。我がアメリカがどうしてこんなにもひどい格差社会になってしまったのか、政府がきっちりコントロールできてれば、もっとうまく行くはずなのに。 苛立ち余って、人種差別が諸悪の根源なのだと短絡的だったりするところはノーベル経済学賞受賞の学究らしからぬ性急さだけれど、そのきっぱりと明解でストレートな論鋒はクルーグマンならでは。	4
4	日高義樹	不幸を選択したアメリカ	2009	PHP研究所	1300	241	978-4569704913	熱狂の渦の外側から、冷や水浴びせ係さんのご登場。 サブプライムくらいで騒ぐなよ。世界で大国と呼べるのは今でもアメリカだけさ。どっしり構えていればいいのに、泡って未経験な大統領なんか選んじやって、だいじよぶ？ 統計数字を挙げるのがつねのエコノミストに対し、人脈で仕入れた政界ウラ情報を根拠に語るのが、この論客の論法です。そこが主観的だねと言われてもしかたないけれど、大勢に流されない視点が提供されているところに一票。	4
5	神谷秀樹	強欲資本主義 ウォール街の自爆	2008	文春新書	710	189	978-4166606634	何が起きてこうなったのか、ウォール街の現場からリポーターがお伝えします、といった趣。カタカナ用語が乱舞するけれど、説明はとても分かりやすい。 何よりも自らも金融ビジネスに携わっている著者が、自分の仕事ポリシーはこうだ、なのに世の趨勢は……とつねに自らを補助線とし、体験を披露しつつの現状分析であるところが地に足が付いた良さ。	4

6	堤 未果	ルポ 貧困大国アメリカ	2008	岩波新書	700	200	978-400431126	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。ばんばんばんと立て続けに見せられて、ここまでひどいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道邁進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。	3
7	ジム・ワイヤー & ケヴィン・フリン	9.11 生死を分けた102分	2005	文藝春秋	1800	358	978-4163674308	いったい何が起きたのか。誰にも分からない大混乱のなか、100階建てのツインタワーから逃げるための15000人の戦いが始まる。数百名の証言で織り上げた、あの瞬間。	1
8	瞠目卓生	アダム・スミス	2008	中公新書	880	283	978-4121019363	今さらアダム・スミス？ そう、今だからアダム・スミス。今期の新規参入本のなかでの山室的イチオシです。 ご存知「神の見えざる手」は決してメカニカルな自由競争システム礼賛ではなくて、人間と社会に対する深い信頼と洞察に裏うちされたものなのですと、コチコチの古典をゆっくりじっくり吟味しながら、スミスの意図の深奥へと錘が下ろされてゆきます。 『国富論』の陰に『道徳感情論』あり。 経済イコールお金の動き、そんなカサついた先入観が、いつしかやんわり溶かされて、堅苦しい学問のお話なのに、心なごんでしまう不可思議さ。 ただし！ 濫読にはとてもとても不向きです。観智の女神は根気よく扉を叩く者にしか微笑みません、少なくともこの本の場合は。	4
9	小島寛之	容疑者ケインズ	2008	プレジデント社	1143	124	978-4833418805	おかあさんに話したくなる経済学。 用例がとつても身近で分かりやすい。貯蓄と設備投資がイコールなわけ、公共投資が有効なのはどんな時、なぜバブルが起きて、そしてはじけるのか、ほら人間って、いいことは少なく見積もって悪いことは多めに見積もるでしょ、だから株価はこう変動しやすいのさ、などなどなどなど。 経済学の講義なんか1つも取ったことありませ〜ん、という超初心者さんにも自信を持っておすすめします。	4
10	日本経済新聞社 (編)	経済学 名著と現代	2007	日本経済新聞出版社	1800	278	978-4532352899	ひとくちサイズの古典が、ずらり18皿、勢揃い。 マルサス・ケインズ・シュンペーター。見えざる手にプロ倫に公共選択。ちょっとかじって味見するには最適です。おいしければ深入りし、おいしくなければ、次、行ってみよう。	4
11	ティム・ハーフォード	人は意外に合理的	2008	ランダムハウス講談社	1800	330	978-4270004364	アンカリングだの保有効果だの、人っていかに愚かでダメされやすいかという話にそろそろ辟易してきたかたに、ちょっと違った視点の提供です。 インターネットで世界のどんな僻地からも情報へイコールアクセスになったはずなのに、なぜみんな都市にギュウギュウ住みたがるのか。それには、こ〜んな合理的な理由が。 ビッグ・カンパニーのCEOは毎日たいした仕事をしているわけでもないのに、なぜ巨額の報酬を手にしてウハウハなのか。それには、こ〜んな合理的な理由が。 人種差別の発生プロセスに光をあてた第6章の緑と紫の労働者雇用の話が、すてきにおもしろかったなあ。	4

12	ダン・アリエー	予想どおりに不合理	2008	早川書房	1800	314	978-4152089793	小ネタのオンパレード、あたかも回転寿司の如し。 オレってどうしていつも締め切り直前にしか始められないんだろ、とか、ダメカレだからさっさと振っちゃいたいのに、なんで見切りを付けられないのかしらん、とか、日頃のあなたの不合理行動を実験ですっきり証明してみせます。 なんだ、みんなそうなんだと安心できるかもしれないけれど、だからって問題を解決してくれるわけじゃないのね。そこが行動経済学のウィーク・ポイントと見た！	4
13	マッテオ・モッテルリーニ	経済は感情で動く	2008	紀伊國屋書店	1600	302	978-4314010474	この本を歴史書の仲間に入れるのは、さすがにムリあるでしょう。 でもほら、カエサルや織田信長が重大な決断をするとき、何と何を秤(はかり)に乗せて、どんな思考を経て(あるいは、どんな感情にとらわれて)結論を出したのかをさぐる一助にはなりそう。 楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。	3
14	スティーヴン・レヴィット スティーヴン・J・ダブナー	ヤバい経済学	2007	東洋経済 新報社	2000	379	978-4492313787	今期、大量参入させた行動経済学本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。 ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。	4
15	ロレッタ・ナポレオーニ	ならず者の経済学	2008	徳間書店	2008	347	978-4198626389	越後屋、オヌシもフルよのう——どっかに悪いヤツがいて、そいつのせいで世界全体がメーワクしてるっていう本書の世界観は、ちとどうかと思うのですが、ネタのイキの良さが身上です。 ほら、そのホンマグロ、地中海でフランスの海賊船が密漁して、リビアの船で運ばれてきたんですよ。	4
16	中島隆信	大相撲の経済学	2008	ちくま文庫	680	237	978-4480424280	相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。 実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。 朝青龍がどうしても品格がなくても平気でいられるのか、も分かります。	2
17	橋本努	経済倫理＝あなたは、なに主義？	2008	講談社	1600	252	978-4062584197	昨年後期、講義版の人気ナンバーワン・コンテンツです。 派遣社員を解雇するのは正しいのか否か？ 政府はマグドナルドを規制すべきなのか否か？ 選択肢はyesとnoの2択じゃない。145ページの表を開いて、おもしろいと思えたあなたはゼツタイはまれます。	4

18	ビョルン・ ロンボルグ	五〇〇億ドルでできること	2008	バジリコ	1600	215	978-4862381170	コペンハーゲンに世界の叡智が集まった。38名全員が経済学者。 エイズに戦争、政治腐敗に温暖化、世界がかかえる9つの大きな難問に、さあ処方箋をどうぞ。費用便益分析をおこなったら、どの処方箋がもっともすぐれているでしょう。果たして人類は、どの宿題から先に片付けるべきなのか。 一等賞はエイズ対策。ビリは温暖化対策。さてさて、あなたは納得できますか？ すべての処方箋に「反論」が付いていて、ディベート気分に参加できるのがうれしい。	4
19	スティーヴン・ ファリス	壊れゆく地球	2009	講談社	1800	250	978-4062146692	地球がアブナイって話は聞き飽きたよね。だいじょうぶ、そんな退屈なリピートはありません。 カリフォルニアの葡萄畑で、ひとくちのワインに植生の変化を感じ取り、地中海のウミガメの島で、打ち寄せる難民の群れに恐怖するヨーロッパ社会のホンネを聴き取り。 徹底して現地主義。アマゾンへ飛び、ハドソン湾へ行き。すべて現地で自らが見た光景と当事者の証言だけで構成しているので、説得力もインパクトも大。 ほら、やっぱりアブナイのは地球じゃなくて、人類だけだった。誤訳もたいがいにせい！ 原題:FORECAST	4
20	福岡伸一	生物と無生物のあいだ	2007	講談社 現代新書	740	260	978-4061498914	ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、リストに加えました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているそう。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 そうなのか！ 興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。そんなふう生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的にも実り多いかと思えます。第9章だけでもぜひ。	3
21	福岡伸一	動的平衡	2009	木楽舎	1524	240	978-4863240124	『生物と無生物の間』が新事実満載の気合いの入ったパワフル講義とするならば、こちらは同じ事実を踏まえつつも、ぐっと気さくな炉端トーク。だから、『生物と無生物の間』のイントロダクションとしても、逆に余韻を楽しむかたちでも行けます。 生命は分子の淀み。なんてユニークで魅力的な世界観。クセになりそう。	4

22	グナル・ハイゾーン	自爆する若者たち	2008	新潮選書	1400	260	978-4106036279	人口学が警告する驚愕の未来 数は力なり。ユース・バルジは力なり。 コンゴ48%、エチオピア47%、アフガニスタン42%、パキスタン40%、インド33%、中国24%、アメリカ合衆国21%、ロシア16%、日本14.5%……15歳未満人口の割合です。 その世代だけが国のなかで、ぽこっと突出して数が多い。それがユース・バルジ。よぼよぼ国の日本に比べて、若々しくって、いいじゃないって？ トンデモナイ！ これらの国では野心あふれる若者たちに、ふさわしいポストを用意することができない。ぐつぐつぐつぐつ不満が溜まる。捌け口を求めて国外へ戦争しに行ったり、国内で暴発して内戦になったり。いいことなんて、なんにもない。 古くて新しいユース・バルジ。大航海時代のヨーロッパ大躍進のわけも、ビンラーディンもアフリカも、すべてこのユース・バルジで説明できます、と。魔女狩りの理由づけのくだりは、さすがに強引すぎだと思ったけれど、飢餓から自由になった若者たちが、次は地位を求めてテロや暴動を起こすという説明には納得しました。 特にそのシニカルな人間観。ハンチントンさんの文明の衝突を尻目に、人間なんて、そんな高尚な生きモンじゃない、宗教も文明も関係なく、サル山のサルと同じように若いサルはあふれば他の山を襲いにゆくものなのさ、とヒトを動物として見る視点のとりかたが強烈に個性的です。 惜しむらくは訳文がヘタっぴい。原著の発想自体はすてきに刺激的なので、よく分からないところは、ささっと読み飛ばすが吉でしょう。	4
23	ジャレド・ダイヤモンド	銃・病原菌・鉄 上・下	2000	草思社	3800	619	978-4794210050	人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。 大陸がタテに長いか横に長い、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！ あざやかな洞察。	1
24	ジャレド・ダイヤモンド	文明崩壊 上・下	2005	草思社	4000	781	978-4794214645	栄えたものは必ず滅ぶ。それぞれの文明の滅びの要因を環境との関わりで広く深くとらえるジャレドの史眼の冴えにうなずきつつ、すべてがレクイエムのように聴こえて、どこか悲しい。 モアイ・ピトケアン・アナサジ・マヤ・グリーンランド……最新の考古学がとらえた滅びの諸相を〈宿命〉と受けとるか〈警鐘〉と受けとるかは、読み手次第。 大著だけれど、1章だけでも、じゅうぶんに分かる。じゅうぶんに刺激的。	1
25	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記 上・中・下	1993	新潮文庫	1200	581	978-4101181530	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。 「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであつた」(下巻83ページ) ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治の要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まない(と蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時も必要)。 紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。	1

26	エリック・ジェイガー	決闘裁判 世界を変えた法廷スキャンダル	2007	早川書房	2100	277	978-4152088734	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようですが、まざまざと見えてくる。ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。 ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。	2
27	安達正勝	死刑執行人サンソン	2003	集英社	700	237	978-4087202212	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましく家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。	1
28	安達正勝	フランス反骨奇人列伝	2006	集英社新書	735	205	978-4087203370	昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた4名のいずれ劣らぬ気骨びと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。 とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感が乗っていて、ぐっと胸に迫ります。	2
29	中野京子	怖い絵 1・2	2007	朝日出版社	3600	481	978-4255003993	絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまふから。 絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまふから。 好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラ・トゥールの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリュゲル「ベツレヘムの嬰兒虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。 ばらばらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!	3
30	中野京子	ハプスブルク家 12の物語	2008	光文社新書	980	193	978-4334034696	ハプスブルク。ヨーロッパに君臨した高貴なる青い血。驚鼻と受け口のこの一族は、スペインとオーストリアの王宮を二大拠点に、15世紀から19世紀までの長い長い期間、各国の王位を独占した。 贅美を尽くした肖像画のなかから、こちらを見つめる王侯たちのまなざしを受けとめつつ、ひとりひとりの人生を訪ねてゆこうという『怖い絵』の作者ならではの趣向。 同族結婚を繰り返し、新しい下賤な血が入るのを拒み続け、どろどろに濃くなってゆく血の果てに生み出されるあまたの虚弱・奇人、そして華やかな美女たちのドラマ。 器量も才能もないのに高貴な青い血だけは受け継いでしまったという苛酷な運命に、王家の人びとがどのように立ち向かったか。シンシことオーストリア妃エリザベート皇后の章が、とりわけ哀切。	3
31	グリニス・リドリー	サイのクララの大旅行	2009	東洋書林	1800	252	978-4887217522	クララちゃんが通ります。だぶんだぶんだぶん。3トンの巨体から垂れ下がっているのはあれは皮！？ 見たことのないキテレツな化け物は行く先々で大人気。 芸は何にもできません。ただ、干し草をむしゃむしゃ食べてるだけ。でも、18世紀のヨーロッパでたった一頭きりの珍獣だよ。みんな見に来てね♪	4

32	スティーヴン・ジョンソン	感染地図 ー歴史を変えた 未知の病原体	2007	河出書房新 社	2600	261	978-4309252186	1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。 いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかに戦ったか。 私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれ ど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリ ング。 歴史上の1エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者は しっかり未来へと視線を向けている。	2
33	鎌田浩毅	世界がわかる理系の名著	2009	文春新書	750	224	978-4166606856	名著なんて、高みに飾って拝んでおくだけのもの。 いやいやそれではもったいない。カマタ先生が、ひょいっと棚卸して、ホコリ をパタパタはたいて、なんでこいつが名著なのかとか、意外にシブい著者の実 人生とか飄々と解説してくれる。さて、誰にまず会いにゆきますか。ダーウィ ン？ アインシュタイン？	4
34	サイモン・シン	暗号解説 上・下	2007	新潮文庫	1219	636	978-4102159729	つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？ おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナ バ木族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやはり量子暗号。 いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのために積み上 げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。	3
35	フランク・ウイン	私はフェルメール ー20世紀最大の贋作事件	2007	ランダムハウ ス講談社	1800	281	978-4270002346	17世紀の無名画家の絵を安く買ってくる→石鹸と水と軽石でいいいに元絵 の絵の具を融かして除去→そのキャンバスの上に17世紀当時と同じ絵の具で 新たに描く→特製の窯に入れて焼き、表面に亀裂を発生させる。 ほぼ、こんな工程で、ニセモノの名画ができあがってゆく。それに託した制作 者の暗い情念。そして、はからずもナチスがからむことで、「これはニセモノな だ」と制作者自ら証明してみせなければならなくなった稀有な巡り合わせ。 偉ぶった美術評論家を巧みに罠に誘い込んでゆくプロセスが痛快で、読み進 むうちに贋作者メーヘレンの野望にどんどん肩入れしてしまう。ちょうど怪盗ル パンを応援したくなるように。 原題:I was Vermeer	2
36	ヨアヒム・フェスト	ヒトラー 最後の12日間	2005	岩波書店	1900	242	978-4000019347	史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とあ る巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー＝大悪人と単純に塗り潰し て満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。	1
37	ロバート・カーソン	シャドウ・ダイバー 上・下	2008	早川書房	1470	663	978-4150503406	潜る。 不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひた すら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。 いやなにも、そこまでなくても、とはらはらの連続の果てに。 ラストメッセージは、「来てくれてありがとう」	1
38	高木徹	戦争広告代理店	2002	講談社	619	405	978-4062750961	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広 告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。 ほんとうの悪者はいったい誰？	1

39	亀山哲朗	やってくれるね、ロシア人！	2009	NHK出版協会	1300	232	978-414035083	すごいぞロシア。列車の案内板の番線箇所には「？」マークの紙が貼られて、列車が到着するたびに、みんな荷物を持って地下通路を走り回るんだってさ、いやほんと(202ページ)。 といった爆笑エピソードのかたわら、収容所の跡へと草踏み分けての自転車行軍など、重たい歴史や多彩な人物との、しみじみとした邂逅もたくさん。カメラマさんはカメラマン。だけど文章も一級品。	4
40	松本仁一	カラシニコフ I・II	2008	朝日文庫	1200	528	978-4022615749	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」。第1章「少女兵」の話がつかかったら、第3章あたりから。 そして、アフリカメインだった第1部に続き、第2部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。 人が人をとても手軽に殺せてしまうAK47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。	3
41	エレナ・ジョリー	カラシニコフ自伝	2008	朝日新書	740	234	978-4022732064	彼の最初の発明はハンコ。書類を偽造するための。その発明によって家族ごと配流されたシベリアを脱出する自由を手に入れた。そして軍隊へ、銃の設計に没頭する日々へ。 「私は兵士たちに、彼らを裏切らない銃を贈ったのだ」。自らの発明の及ぼした、あるいは及ぼしつつある影響のとてつもない大きさを噛みしめるかのよう に、83歳の老人ははしずかに来し方を語る。今やAK47は、自由を求める者の手にも、自由を抑圧する者の手にも標準装備されている。特許も取っていないかったそのAK47から、彼は1コペイカたりとも収益を受けとっていないという。	3
42	アスネ・セイエルスタッド	カブールの本屋 ―アフガニスタンのある家族の物語	2005	イースト・プレス	1800	356	978-4872575781	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。	2
43	石井光太	物乞う仏陀	2005	文春文庫	650	341	978-4167717919	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。救いのない現実の運なりに暗然。	2
44	石井光太	神の棄てた裸体 ―イスラームの夜を歩く	2007	新潮社	1500	295	978-4103054511	印税すべてを握りしめ、彼は再び旅へ出る。28歳になっていた。またしても、凄まじい現場へ、強靱な精神力で立ち向かってゆく。	2

45	ロバート・ゲスト	アフリカ 苦悩する大陸	2008	東洋経済 新報社	2200	308	978-449221177	不幸な家庭は、それぞれ異なるとトルストイ先生はおっしゃったけれど、アフリカの国家が陥っている不幸は、何かお互い似通っている。石油掘削機が順調に稼働しているのに内戦に明け暮れるアンゴラの不幸も、奔流のごとき援助に浴し続けながらも日に日に国民が貧しくなってゆくザンビアの不幸も。 どうやら、おおもとの原因は国家というシステムがちゃんと機能していない、という点に行き着きそう。シンプルだけれど重たい結論。 じゃあ、どこをどう改革してゆけばよいのか？ ジャーナリストという、いわば〈野次馬視線〉で惨状をただ記録するのではなく、エコノミストとしての〈分析力〉を武器に、どうしたら、このたくさんの「家」たちが幸福になれるのか、現場からの真摯な問いかけが重ねられてゆく。	4
46	松本仁一	アフリカ・レポート	2008	岩波新書	700	199	978-4004311461	『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましく中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の2点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー1個が3000万zドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問1 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問2 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？	3
47	エドワード・ルース	インド 厄介な経済大国	2008	日経BP社	2400	450	978-4822247119	全体像を把握することは、とても困難。その意味で「厄介な」ということなのだろう。 原題は『IN SPITE OF THE GODS -The Strange Rise of Modern India』 IT産業が花開きつつも、昔ながらの農村はそれと全く無関係に水不足に苦しんでいる。Strange! 選挙で政権担当者を決めているのに、多数派の下位カーストが勝利できず、ヒンドゥー至上主義がまかり通っている。Strange! とてもごつい本なので、ぱっと開いたどのページからでも、ちょっとだけのStrange 探検をどうぞ。	4
48	伊藤洋一	ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩	2007	日本経済 新聞出版社	1700	228	978-4532352417	インドには興味津々だけれど、『厄介な～』はゴツすぎてどうもね、というかたには、手軽にこちらをどうぞ。取材の幅や深さは『厄介な～』に遠く及ばないけれど、日本人視点の率直さが良さ。 ほんとに、どうしてインド人はオリンピックでメダルを取れない(むしろ、取らない)んでしょうね。	4
49	アレクサンドラ・ハーニー	中国貧困絶望工場	2008	日経BP社	2200	408	978-4822247133	本屋さんでは中国モノの棚は、すぐ分かる。「真っ赤だ」 この本もそう。真っ赤な装幀。キャッチコピーは中国版「蟹工船」。開けば「立ち上がる労働者」なんて、超お約束の章タイトル。 けれど、分かった気になる前に、第6章李草媛の物語だけでもどうぞ。二十歳の華奢な娘が、勇気ひとつで工場労働者から不動産業界へと転身する出世ストーリー。 China Price いつまで続く わけじゃない	4

50	城山英巳	中国臓器市場	2008	新潮社	1400	220	978-4103080817	社会の暗部。見ないで済むなら、そのほうがさいわい。それでも、という方のみ、どうぞ。 厳罰主義の中国では死刑執行が年間千件（もしくは一万件＝闇の数字）。ドナー確保に最適のビジネス・チャンスに、国が、医師が、そして（日本人を含む）患者たちがどう絡まりあっているかという鬱々たるお話です。	3
51	相原茂	ちくわを食う女	2009	現代書館	2200	306	978-4768469897	タイトルの珍妙さはあんまり本文と関係なし。いや、あるかな、「ひとくちずつ」というところが。 数の数え方、お返事のしかたから、結婚という人生の一大事まで。日本はこうだけど、おたくはこうなんですってね、と留学生さんや取引先さんとの話のネタに好適です。	4
52	ピエトラ・リボリ	あなたのTシャツはどこから来たのか？	2007	東洋経済新報社	2000	322	978-4492443398	それをサクシュと呼べますか？ 静かに著者は問いかける。 あなたが今着ているTシャツは低賃金の中国の女工さんたちによって作られているけれど、でもその仕事が止まったら彼女たちは農村に戻って、もっとつらい貧しい生活に耐えなくてはならないのですよ。 あなたが、もしそのTシャツを捨てたら、タンザニアの若いお母さんがよそゆき着にしますけれど、それは居心地悪いですか？ この国で庶民が買える値段の服は古着だけなのですよ。 型にはまった議論こっぱみじん。すべての取材は現場に足を運び、自らの目で見届け、そこから何が正しいのか、が問いかけられる。 グローバル化についての、とても身近で、でもとてもユニークな追跡報告。	4
53	星野博美	転がる香港に苔は生えない	2000	文春文庫	990	620	978-4167717077	ローリング・ホンコン。むしろ、爆発ホンコン。 カッコつけてないのが、いい。飾り気がなくて、真っ正直なのが、いい。憧れの美少年への恋心も、イケ好かない友人への辛辣な視線も、そのまま深くぶちまけられ、読み手はいづしか香港の「炒（ちやう）」のただなかに巻き込まれている。 たとえば電車のなかで見ず知らずの他人同士がおしゃべりしているのに、ふと聞き耳を立ててしまうかのように、623ページの、このぶあつい文庫本の、このページでもぼっと開いて、とりあえず身を任せてみてほしい。ルボなんていう、気取ったひとごと視線でなく、血肉の一部としてのホンコンと格闘中の彼女に出会えるから。	3
54	小林紀晴	ASIAN JAPANESE 1	2004	新潮文庫	590	368	978-4101439211	甘え、と言えるのかもしれないな。自分探しと称して、いい若いもんが、アジアを何ヶ月も何年も、あてどなく放浪する。ニッポンと比べて物価がめっちゃめっちゃ安いから、できることだよね。 そんな若いもののひとりが、バンコクで、バリで、カトマンズで、彼らのポートレートを撮り、それぞれの胸の内を聞き出した。さらに帰国後の彼らにコンタクトして、その後の人生をまた撮った。引き続き自分探し中のひと、ちょびっと夢に近づいたひと。 甘えとも、そうでないとも言い切れない、いまだ旅の途上の彼らの言葉に、彼らのまなざしに、やはり自分探し中のこの場の読者さんたちが、ふっと感應するものがあれば幸い。	3

55	渡辺奈々	チェンジメーカー	2005	日経BP社	1600	186	978-4822244644	女のひとが多いなあ。ひいふう……18人のうち12人。みんな笑顔がきれいだなあ。 世の中のためになる仕事。そんなのは、才能と運に恵まれたごく一部のエリートさんにしかできないさと思っていただけれど、今日び、意外とそうでもないみたい。国境なき医師団のようなシニセでなくても、いろんなNPOが生まれて、この社会の歪みを正そうと、しなやかに真剣に働いている。もしかして、その仲間たちのなかに、あなたの居場所があるかもしれない。 「地の塩」という言葉を思い出した。	4
56	白尾元理	日本列島の20億年	2009	岩波書店	1900	100	978-4000057707	写真がすばらしい。特に空撮。鳥の目でしっかりと山や川が、どんなふうに地形をつくってきたかが見てとれる。ナンバー20の新雪富士にほれぼれ。 解説が、もっと愛想良かったらなあ。できればイラスト入りがあらまほしい。良い企画なのに、そこがホント惜しい。	4
57	海野一隆	地図に見る日本	1999	大修館書店	2600	194	978-4469232042	半分だけだったり逆立ちしてたり、奇想天外な日本認識コレクション。すべて見開きの右が地図、左がコンパクトな説明なので、展覧会気分で見回れる。なぜか近代になって正確になるほど、つまらなく見えてくるから不思議。	1
58	松岡正剛	白川静	2008	平凡社新書	780	238	978-4582854404	漢字の鬼。96年の生涯を漢字の研究に捧げ尽くして、『字統』『字訓』『字通』の漢字バイブル三部作を独力で完成させた知の巨人。 その仕事がどんなにスゴいか、客観視線でなく、熱い思い入れで語られるのがいい。なるほど文字は、コミュニケーションのための単なるツールではなく、もっと怖くておどろおどろしい、人を殺す道具だったんだ。 たとえば「口」。これは身体の器官としての口ではなくて、言霊の入れ物としての漢字マザー。(漢字マザーとは、とりわけ呪力の高い重要パーツ)。 ついでに「工」。これは、神を呼ぶための道具をあらわす。これも漢字マザー。右手に言霊の入れ物を持つから「右」。左手に神を呼ぶ道具を持つから「左」。神聖にして厳肅なる光景です。 あなたは左利きですか？	4
59	長野仁・東昇	戦国時代のハラノムシ	2007	国書刊行会	1000	97	978-4336048462	戦国時代、病氣は虫の形をしていた。鉞(はり)という武器をかざして奇天烈なモンスターに立ち向かった人々の心意気を感じつつ、とりあえず愛敬たっぷりのこいつらに爆笑。	1
60	長谷川權	国民的俳句百選	2008	講談社	1700	306	978-4062150958	入り口なし。順路なし。 どこでも、ぱっと開いたところから、たった3ページのミニコスモスへどうぞ。 その俳句、3ヶ月間覚えていられたら、あなたの一生の道連れになるでしょう。	4

61	堀井憲一郎	落語の国からのぞいてみれば	2008	講談社 現代新書	740	202	978-4062879477	落語をネタに、かるやかに江戸の昔と戯れているようにみせて、ときどきずしーんと人生観や世界観を投げ込んでくるところが達人のホリイさんのスゴいところ。 死ぬ者貧乏、死んだらおしまいってこと。名前だって、てめえひとりのもんじゃない。社会的責任が果たせなくなったら、ちゃんと返すのさ。個性？ 何それ。 時間は季節にあわせて伸縮自在。お天道様が出れば明け六つ。沈めば暮六つ。シンプルだろ。 ゼとカネは厳然と違う。銭は銅貨、ふだんお世話になるもの。カネは金銀、めったに拝めないおタカラ。おタカラは遠ざけておくもんだ。間違っても手に入れようなんてしちゃいけないぜ。必ず人死にが起きるから。 結婚？ よくぞ聞いてくれた。江戸の昔に見合いも恋愛もない。年頃になれば、いやおうなく結婚するばかり。独りでいるのはイケナイことだって、みんな信じてたからね。 などと、さくりさくり歯切れのよい洞察が続く。おあとはホリイさんから直接どうぞ。	3
62	わぐりたかし	地団駄は島根で踏み	2009	光文社	924	336	978-4334034986	語源ハンター降臨。 いや、これは気合い入ってます。ヘンな言葉のルーツを求めてニッポン全国突撃探訪。そのエネルギーのかけかたは、ちょっとした蘊蓄本とは、ワケが違います。 とにかく現地へ行ってみよう！ 主義。歴史家の立場で見ると、あんまり簡単に現地の言い伝えを信じすぎてるなあ(特に「もとのもくあみ」とか)ってのはあるけれど、「ゴリ押し漁」を実現したり、「お払い箱」を見つけちゃったり、行動派ならではの収穫も盛りだくさん。 目次がいきなり地図ですので、あなたのお国のお話からどうぞ。	4
63	辻 惟雄	奇想の江戸挿絵	2008	集英社新書	1000	173	978-4087204407	風が、嵐が、爆発が、ダイナミックに画面を走る。あやかしの世界の霊たちは、すうっと薄墨で重ね刷りされ、あの世らしさをぞくりと伝える。 おそるべし江戸文化。こんなハイセンスな挿絵満載の読本と日々戯れていたなんて。 奇想には、奇想を以て対すべし。2008年前期の院生さんセッションでは、166ページの水滸伝シーンをEXILEの武道館公演と読み替えたプレゼンテーションが大ウケでした。	3
64	磯田道史	武士の家計簿	2003	新潮新書	680	203	978-4106100055	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。	1
65	大岡敏昭	幕末下級武士の絵日記	2007	相模書房	1400	189	978-4782407035	34歳、独身、ヒキコモリ。なのに、なんと楽しそうな日々の語らい。 本を読んでは酒を呑み、花御堂をつくっては酒を呑み、いつも家族や友人に囲まれて。 ほのぼのテイストの絵日記が、いちどだけ突如、荒れたタッチに変わる。まるで、日々やりすごしていた心の深淵がこの夜だけはぽっかり口を開けたかのよう。184ページ必見！	2

66	テッド・Y・フジモト	バンクーバー朝日軍	2008	文芸社	1400	183	978-4286039978	この一冊に賭けた思いのたけがハンパじゃない。 もう90年以上もの昔、はるかカナダの地にて、人種差別と闘いつつ勇名をとどろかせた日系移民の野球チームがあった。それが「朝日軍」。その歴史を、今ここに刻んでおきたい、なぜなら亡き父がそのチームのエースピッチャーだったから。 定年後、ようやく時間のゆとりを得て人生の宿題に取りかかったフルモトさんの気合いが、熱いスポーツ物をさらに熱くする。	3
67	ジョー・オダネル	トランクの中の日本	1995	小学館	2500	98	978-4095630132	たぶん戦争体験って、こんなふうにししか手渡してゆけないのかもしれない。 ハエが真っ黒にたかったりんご(90ページ)とか、アルミニウムのお盆(30ページ)とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。 写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。	3
68	林 望	ついこの間あった昔	2007	弘文堂	1500	240	978-4335800559	和服のおばあちゃんが茶の間で(!)新品の洗濯機のローラーを回して洗濯物をしぼっている。手前には夕餉のしたく。そんなレトロ写真に、そう言えば夏休みに洗濯の手伝いで衣類を「のしいか」にするのは、けっこう楽しかったっけ、と著者自身の思い出を重ねる。 ありきたりの写真解説ではなく、個人の記憶と重ね合わせることで、昭和の内ぶところに、より深く抱かれる。	2
69	野口悠紀雄	戦後日本経済史	2008	新潮選書	1200	237	978-4106035968	サブプライムかまびすしい昨今、経済学を学ぶ際、具体的なトピックは、やはり意識しておきたい。石油ショックに土地バブル、「絵画は壁にかけた土地だ」だった時代を経て、山一崩壊からライブドアへ。 タイトルから予想されるモノモノしい概説ではなくて、むしろ経済界ウラバナシ集といった趣。週刊誌連載なのでトークも軽妙、どこからでも出入り自由。	3
70	実相寺昭雄	ウルトラマン誕生	2006	ちくま文庫	950	365	978-4480421998	シュワッチ！ 変身したら、すうっと空に飛んで行ってほしいんだな、よいしょ、って感じじゃなくて、さ。 注文を受けて特撮がんばる。トランボリン ×。ワイヤーで吊る ×。飛び降りたフィルムを逆回し ×。失敗また失敗の果てに、スタジオの隅にあった板の上にウルトラマンを立てて、みんなでせいのって板を持ち上げてカメラ前を通過させてみたら、うまく行っただ、やっほー。 怪獣たちと一緒に夢を追いかけた円谷プロのあの時代。現場の熱気と失敗談をゆかいな挿絵満載でお届けします。	3
71	藤森照信	藤森照信、素材の旅	2009	新建築社	2400	247	978-4786902161	なんと本のタイトルにまで出しゃばっちゃう濃い個性の作者さん。 現場でも、おとなしく腕組みして観望しているわけもなく、「僕にもやらせて！」屋根葺き用のコケラ板を割ったり、熱した竹を磨いたり、杉板のロケット噴射ごっつ。なかでもいちばんアツいのはトンテンカンテン、真っ赤な鉄から和釘を打ち出す鍛冶屋さんでしょうか。本日の働き、釘4本ナリ。 モノづくりっていうよりも、モノそのものが、ほんとに好きなんだなあ。	4

73	門田隆将	なぜ君は絶望と闘えたのか —本村洋の3300日	2008	新潮社	1300	237	978-4104605026	電車のなかで読まないで。たぶん、涙が止まらなくなるから。 光市母子殺害事件。なぜに自分の家族が？ 突然に叩き落とされた奈落の底から、どんな光を頼りに青年は自らの力で未来を開いていったのか。それがいつしか日本の司法制度を変える大きなうねりとなってゆくまで。 一人称ではなく、情に流されない観察者の筆致で、しっかりとあとづけられた、たったひとりの、けれど重い足跡です。静かな熱さに吸い寄せられて、一晩で一氣に読みました。	4
74	金森重樹	借金の底なし沼で知ったお金の味	2009	大和書房	1600	259	978-4479771333	東大法学部卒フリーター。相場に手を出して借金地獄。 そんなに簡単に億単位の借金ができちゃうんだねと、巧妙にして悪辣なるアリジゴク・システムに啞然です。そこからの生還方法がまた、たくましい。法に頼るでもなく、市民団体に助けてもらうでもなく、稼ぎに追いつく貧乏なしの特大大パワフル版というか。 ちょっとお説教っぽいのがうざいかも。だけれど、そこは読み飛ばしても希有な体験談は耳傾けて損はないでしょう。	4
75	石川拓治	奇跡のリンゴ	2008	幻冬舎	1300	192	978-4344015449	変わりもんの困りもん。津軽弁でカマドケシと呼ばわるそうな。 そのカマドケシさんが、変わりもんであるがゆえに成し遂げてしまった、とんでもミラクル無農薬リンゴ。 徹底的に現場主義、リンゴの木から一歩も離れずに語られる体験談がすがすがしい。なるほど、生態系を殺すことから農業って始まるんだね、と納得。 九年ぶりに白い花を咲かせたりんご園。木村さんと一緒にお花見をどうぞ。	4
76	石川直樹	最後の冒険家	2008	集英社	1600	188	978-4087814101	熱気球で太平洋横断。大空高く、悠々と。 いやいやいやいや、実際は……。現場を踏んだ者にしか語れないリアルな体験談が続きます。 GPSで本部に逐一、現在位置を報告する。そこだけが今風。でも、粗末な手作りの装置で、わずかな勝算しかないのに、繰り返し繰り返し「前人未踏」に挑むところは、ライト兄弟やリンダーバーグの時代も今も、まったくおんなじ。 格好よくて、格好わるい、そんな冒険家スピリットをどうぞ。	4
77	斎藤 潤	吐噤噺(とから)列島	2008	光文社新書	860	264	978-43340364689	トカラ。沖縄と九州のあいだ。 ボゼが棲んです。真っ赤なお面にウサミミの。 じゃがじま(臥蛇島)とか、こじゃがじま(小臥蛇島)とか、宝島とか、小宝島とか、あります。 そんな観光気分だけでは済まない苦労が山ほどあるに違いない「日本でいちばん細長い村」だけれど、そこは旅人さんのお人柄、岩場の湯溜まりにとっぴり漬かって、トビウオの魚醤づくりに没頭する新住民の身の上話など、なごやかに聞き出してきてくれます。	3
78	辺銀愛理	ペンギン夫婦がつくった石垣島ラー油のはなし	2008	マガジンハウス	1500	117	978-4838719006	あいあむ、ぺんぎん。本名です。ほんとですってば。 ぺんぎんなのに、南の島に住んです。 そこで、あぶら、売ってます。ほんとですってば。	3

79	岸勇希	コミュニケーションデザイン	2008	電通	1800	186	978-4885531989	コミュニケーションをデザインするための本 あんなヒット例、こんなサクセス例。うきうきと並べてゆくことで、この本自体が 電通という企業のリッチなコマーシャルになってしまっているのだから、したたか と言うか。 でも披露される、たくさんのテクニックは、ふむふむなるほどと興味を引くもの ばかり。 そうそう、「40人40色の恋愛模様」のサイトに仕掛けられた人気投票システム は、我がヒストリアンズでもすでに実現しているではないですか！ やったね♪	4
80	和田 竜	のぼうの城	2007	小学館	1500	332	978-4093861960	のぼうさま。戦国時代の終わりに、ぬうっと現れ出でた主人公の茫洋さ加減が スゴい。 その類例のない人物造型を初めからゆっくり味わうのもよし、253ページから のクライマックスシーンをちょっと覗くだけでも。 ニュータイプの歴史小説、その方面では、ただいま大ブレイク中。	3
81	畠中 恵	しゃばけ	2004	新潮文庫	514	331	978-4101461212	若だんなが通りますよー。 なよなよと病弱だから、妖怪のお友達がぞろ～りぞろ～り付いてくるん です。あてになりそな、ならなそな。さてさて、花のお江戸を震わせた連続殺人事 件の解決、首尾良くできるでしょうか。 へっぴり腰で、ちっとも恰好よくないところが、ほっこり、いいね。	3
82	宮部みゆき	おそろし	2008	角川書店	1700	425	978-4048738590	宮部みゆき＝ミステリーって思っていたら、これはちょっと違います。 たしかに謎解きもお話の骨格の中に入っているけれど、読みどころは、たぶん そこじゃなくて、人の気持ち、人が人を好いたり嫌ったり慕ったり憎んだりする、 そのこまやかさに自分の日頃の思いのあれやこれやを重ねてみられるところ。 重ねられなかったら御縁がなかったということ。 文庫本になってからのほうがハンディで読みやすいかと思ったのですが、 きれいに仕立てられたハードカバーの装幀も愛でいただければ幸い。 続編を、ただいま読賣新聞連載中。	4
83	森見登美彦	有頂天家族	2007	幻冬舎	1500	353	978-4344013841	この世の中は天狗と狸と人間から成り立っています。 三択だよ、って言われたら、何になりたいですか。 ゼツタイ狸を選びたくなる。狸になって偽轂電に化けて寺町通りを爆走して「そ れは阿呆の血のしからしむるところだ」って呵呵大笑してみたくなる。たとえ狸鍋 にされても。きやーッ。 章ごとに独立でも読めます。	3

84	惣領冬実	チエーザレ 1～6	2006	講談社	3715	100	978-4063722015	チエーザレ・ボルジア。500年前のイタリアに現れた、とてつもなく規格はずれの風雲児。その若き日々。ピサの町を舞台に暴れまわる凜々しさにほれぼれ。BL？ と、と、と、とんでもない！ 全ラインナップで唯一のコミック版です。コミックなので、全ページ読んでも、100ページまでしかカウントしないというルールで宜しく。	3
----	------	-----------	------	-----	------	-----	----------------	--	---